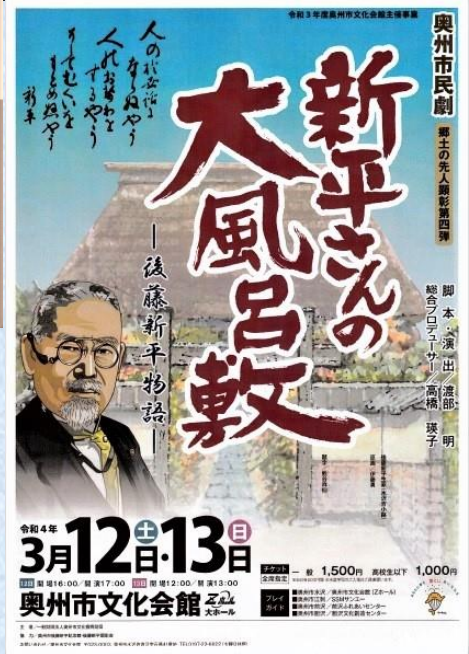


【奥州市民劇制作発表会】

新平さんの大風呂敷

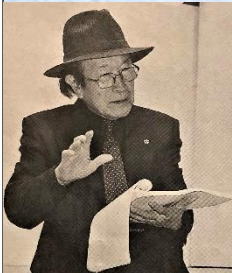
郷土の先人顕彰第四弾。本来、昨年(2021)の12月に開催予定でしたが、コロナ禍のため、延期。今年(2022)の12月を更に延期し、満を持して、いよいよ来年3月実施予定での旗揚げです。「前屈み」と「握りこぶし」に意気込みが伝わります。



【「後藤新平物語」制作発表会】10月10日

奥州市文化会館において、市民劇の制作発表会が開かれました。コロナ禍で、延期に次ぐ延期をせざるを得ない状況が続きましたが、ここに来て、やっと仄かな灯りが見えてきました。目標を3月に定め、関係者一丸となって歩み始めました。

渡部明脚本・演出、高橋瑛子総合プロデューサーのコンビによる市民劇は4回目。幕開けは、「令和の日本に後藤新平はいないのか!」と脚光を浴びている「日清戦争帰還兵検疫事業」から。集合したスタッフ・キャスト一同が、大成功に向けて氣勢を上げました。満席分のチケット販売が可能になることを祈りつつ。



発表会を取材した地元紙「岩手日日」によると、脚本を担当した渡部さんは、「『後藤新平は安心して暮らせる日本をつくるため力を尽くした。これを脚本に込め、演出する』とし、2幕18話で2時間40分ほどの作品となるとして『数々のエピソード、時代や土地をつなぐため講釈師に進行してもらう』との考えを語った。見どころについては、①日清戦争帰還兵検疫事業、②関東大震災からの復興とロシア外交、③晩年斎藤實に電力国営化、保険国営化、酒税国営化を託した、というエピソードが柱になるとしている。」と、熱く語っています。

【冬の3館ウォーク企画スタート】10月7日

奥州市の冬の風物詩にしたいと目論んでいる「冬の3館ウォーク」。今年で4年目を迎えます。高野長英記念館、斎藤實記念館の館長と顔を揃えての第1回会議。

市内外を問わず、高校生以下を対象としているこの事業は、各顕彰会の協力をいただきながら進めてきたもので、年間500人を超える交流人口を生み出しました。しかし、ここ2年間は、コロナのため頭打ちとなっています。堅実な活動を継続しながら、子ども達や家庭の冬の活動の選択肢の一つとして定着することを願っています。



【岩手高校写真部】10月9日

研究発表の資料にするとのことで、岩手高校の写真部生徒4名と引率の先生1名が来館しました。お気に入りの角度を見定め、シャッターを切っていました。この後は、後藤家旧宅と水沢公園の銅像を撮りに行くとのこと。



【水沢南地区センター】10月14日

地元水沢南地区センター事業。「後藤新平に会いに行く」として、片道4kmほどの距離をウォークラリー。20分間の滞在時間ということで、18名が館内見学とビデオ視聴に分かれての対応。半数以上が長距離を歩いてきた上での館内見学。さすがに元気な方々の集団です。

